

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

三重県漁業女性部連合会 第 57 回通常総会開催

三重県漁協女性部連合会の第 57 回通常総会が 27 日 (火)、県総合文化センターセミナー室で開催された。

県下では現在 7 つの女性部があり部



員数は 1,992 名となっており。当日はおよそ 40 名

の部員が出席した。

冒頭では永富漁連会長と石井県水産経営課長が祝辞を述べ、岩崎副会長理事が議長となり議事が進行した。平成 25 年度事業報告と平成 26 年度事業計画などについて審議され、すべて賛成多数で承認されたほか、任期満了に伴う役員改選も行われ、下記の役員が選任された。

総会終了後は恒例の講演会が行われた。今回は東海大学の関いずみ准教授を迎え「浜の女子会 ～楽しい女性部活動を目指して～」と題して講演が行われた。

講演後に参加者がグループをつくり、元気の出る女性部活動のアイデアを出し合い、その結果を各グループで発表した。出席者からは次々と発言があり、

充実したものとなり、あっという間に時間が過ぎていった様子だった。



活発な意見交換の後、各グループが発表

選任された新たな役員 (敬称略)

会長理事 小寺功子 (菅島)

副会長理事 前川さつみ (松阪)

理事 藤原朋代 (神島)

〃 岩崎光子 (尾鷲)

監事 矢田律子 (鈴鹿市)

〃 中西富士子 (香良洲)

水産庁で資源管理・密漁対策勉強会 赤須賀漁協青壮年部研究会

赤須賀漁協では青壮年部研究会が中心となり、シジミ、ハマグリなど貝類の資源管理と密漁防止対策に長年取り組みその努力が実っているが、近年悪質な密漁者が後を絶たない状況で、地元では大きな悩みとなっている。



そこで同研究会では資源管理と密漁防止対策の知識習得のため 27 日、水産庁において研修を行った。

研修ではまず、研究会が長年取り組んできた事例を紹介し密漁の現状についての報告を行った後、水産庁より他県の取り組み状況などの説明を受け、担当職員らとの意見交換会を行った。

会場には増殖推進部や資源管理部、漁港漁場整備部の担当のほか、全漁連も出席し、活発な意見交換が行われた。また意見交換の後には浜の活力再生プランの説明も受け、若い漁業者らには貴重な体験となったようだ。

新たに情報誌を発刊
三重の漁業を応援する情報誌

漁連では情報誌として「週報みえぎょれん」を発行し、漁協はもちろん各系統団体や県や県出先機関等にも配布しているが、この度三重県漁協青壮年部連絡協議会等が中心となり、情報発信機関紙「～海と生きる～かいせい」を創刊することになった。



三重県の漁業やその魅力について多くの方に知ってもらおうと若手漁業者のインタビューや各地の郷土料理の

紹介記事などが掲載されている。

近日中に配布されるのでぜひご覧ください。

神前浦の養殖場を見学
伊賀市の小学生が漁業体験

23 日、南伊勢町の神前浦に伊賀市立中瀬小学校の児童 12 人が訪れ、マダイ養殖場などで給餌体験を行った。

船に乗るのが初めての児童もいたが、地元養殖業者に教えてもらいながら給餌作業を体験し、どの児童も小割の中の魚の動きを興味深そうにじっと見詰めていた。

地元では「子供たちの元気な姿を見ると我々も元気をもらえる。」と話していた。



マダイに給餌する児童 冷凍エサの量にビックリ

【主な予定】

○5 月 30 日（金）

第 4 回ひじき・ふのり共販（松阪）

本文の無断転載・転用等は固くお断りします